

イエジー・スコリモフスキ監督 (監修) から

日本の皆さまへ

Jerzy Skolimowski

ポーランド映画祭は今年で6年目を迎えることになりました。私たちポーランド映画を愛してくださる日本の皆さんの想いがあるからこそ、毎年この映画祭を続けてこれたのだと信じております。

ポーランド映画は今、若い世代の監督たちが躍進を続けています。

今年のポーランド映画祭では、彼らの新たな作品を中心に、これまで日本では紹介されていなかったドキュメンタリー作家ジヴォルスキ作品などを上映いたします。また、カヴァレロヴィッチやツイブルスキ、ワイダなどの追悼記念上映は、彼らの作品をデジタル・リマスター版でご覧いただける貴重な機会でもあります。

このたび上映される私の映画『早春』は、長らく日本で上映されていないと聞いています。長い時を超えて、この作品を再びスクリーンで皆さんに見ていただけることをとても嬉しく思っています。

東京都写真美術館ホールで皆さんとお会いできることを楽しみにしております。

イエジー・スコリモフスキ

イエジー・スコリモフスキ！ Jerzy Skolimowski

Deep End 早春

監督: イエジー・スコリモフスキ
1970年 | 90分 | カラー | デジタル・リマスター

1968年頃から活動拠点を国外に移したスコリモフスキがイギリスと旧西ドイツ合作で製作した、今もカルト的人気を誇る作品。女性への倒錯した想いを募らせた少年の悲しい青春劇。公衆浴場で働く15歳の少年マイクは年上の女性スーザンに憧れるが、徐々にエスカレートするマイクの行動はやがて悲劇的な結末を迎える。2018年1月、YEBISU GARDEN CINEMA他にて公開。

11/26 10:15 12/1 11:00
©2011 Bavaria Media. All rights reserved.



11 Minutes

イレブン・ミニッツ

監督: イエジー・スコリモフスキ
2015年 | 81分 | カラー | デジタル

『エッセンシャル・キリング』から5年ぶりに発表された本作は、午後5時から5時11分までの間に大都会の見知らぬ人々に起こる11分間のドラマをモザイク状に構成した、リアルタイム・サスペンスの傑作。衝撃のクライマックスまで、見る者の目を一時も離さない緊張感溢れる映像は、巨匠監督とは思えないほどのチャレンジ精神に満ちている。

11/28 19:00 12/1 13:20
©2015 SKOPIA FILM, ELEMENT PICTURES, HBO, ORANGE POLSKA



FESTIWAL FILMÓW POLSKICH 2017

ポーランド 映画祭 2017

今年で6年目を迎えるポーランド映画祭。多くの映画作品に影響を与えてきた傑作古典から、改めて発掘された知られざる名作、そして次世代を担う若手監督たちによる最新作まで、ポーランド映画の注目作を厳選してお届けします。

“ポーランド派”として映画史を築きあげた映画監督ワイダ、カヴァレロヴィッチ、そして俳優ツィブルスキ。国内に留まらずヨーロッパ諸国で映画製作を続け、今も意欲的に新作を発表し私たちに驚かせてくれるスコリモフスキ。彼らの手がけた数々の名作とともに、その影響を受けて育った若い監督たちの作品もご紹介します。また、ポーランドを代表する作家レムや画家ベクシンスキーの貴重なドキュメンタリー作品といった注目の作品も勢ぞろいします。常に進化し続けるポーランド映画の世界を、ぜひご堪能ください。

ポーリッシュ・シネマ・ナウ！ Polish Cinema Now!

Powered by CULTURE PL

今、勢いに満ちているポーランド映画の最前線。数々の注目作の中から、ポーランド本国で話題を呼んだ日本未公開作品をいち早くご紹介いたします。



ジャパンプレミア

Plac zabaw

プレイグラウンド

監督：バルトシュ・M・コヴァルスキ
2016年|82分|カラー|デジタル

夏休みの前日、小さな町で無邪気に遊ぶ三人の少年少女。家族や恋の悩みを持つ彼らの不安定な心はやがて残酷さへと導かれ…。10代の主人公たちが過ごす一日を通して暴力のメカニズムと悪の根源を問う、31歳新鋭監督の衝撃作。2016年サン・セバスティアン映画祭でセンセーションを巻き起こした本作は、ワルシャワ映画祭・ロンドン映画祭で特別表彰。

11/30 15:50 12/2 18:30
12/10 19:00 12/15 16:00

©Film it Sp. z o.o., Studio Produkcyjne ORKA Sp. z o.o. 2016



ジャパンプレミア

Sztuka kochania. Historia Michalina Wislockiej

アート・オブ・ラビング

監督：マリア・サドフスカ
2017年|120分|カラー|デジタル

1976年、社会主義政権下のポーランドで700万部超のベストセラーを記録した大人の性教育書『愛の技法』。本書の著者ミハリナ・ヴィスウォツカの愛と友情、そして出版までの長い闘いの物語。産婦人科医として多くの女性患者の悩みを聞いてきたミハリナは、ポーランドにおける性教育の必要性を確信し、厳しい検閲と闘いながら『愛の技法』出版にこぎつける。

12/7 18:30 12/9 18:40 12/13 11:00

©TVNSA, Orange Polska SA, Next Film, Plast Service Pack



Komunia

オラとニコデムの家 (映画祭題)

監督：アンナ・ザメツカ
2016年|72分|カラー|デジタル

ポーランド、セロツクに住む家族の日常を、14歳の少女オラの視線で追ったドキュメンタリー。オラの家族は、酒浸りで家庭を顧みない父親と、自閉症の13歳の弟ニコデム、今は別の男と暮らしている母親。家族の面倒をひとりで見ているオラは、弟の聖餐式を機に、家族が元通りになると信じているが…。山形国際ドキュメンタリー映画祭2017大賞受賞作！2018年日本公開予定。

12/7 16:00 12/9 14:00 12/13 14:00 12/14 19:10

作品提供：認定 NPO 法人山形国際ドキュメンタリー映画祭
配給：ムヴィオラ



ジャパンプレミア

Dwie korony

二つの冠

監督：ミハウ・コンドラト
2017年|92分|カラー|デジタル

「アウシュヴィッツの聖者」と呼ばれたカトリック司祭マクシミリアン・コルベ (1894~1941) の生涯。30年代に日本で布教活動を行った司祭は、第二次大戦中ドイツ軍に逮捕され、アウシュヴィッツ＝ビルケナウ強制収容所送りに。その奇数な運命を、記録映像と再現映像を組み合わせたドキュメンタリーの手法で映画化。2017年カンヌ映画祭特別上映作品。

12/9 15:40 12/13 16:00 12/15 11:00

©Kondrat-Media



Córki dancują

ゆるめる人魚

監督：アグニェシュカ・スモチンスカ
2015年|92分|カラー|デジタル

12/9 10:20 配給：コピアボア・フィルム
©2015 WDFIF, TELEWIZJA POLSKA S.A., PLATIGE IMAGE

人間を食べて生きる人魚の姉妹が、ワルシャワのナイトクラブに雇われ、得意の歌や踊りを披露する。だが一人が人間の男に恋をしたことで、姉妹の間に亀裂が入る。社会主義政権下の1980年代ポーランドを舞台にした、妖しく艶やかなホラーミュージカル。2018年2月より新宿シネマカリテにて公開。



The Zookeeper's Wife

ユダヤ人を救った動物園 アントニーナが愛した命

監督：ニキ・カーロ
2017年|127分|カラー|デジタル

12/5 18:00 配給：ファントム・フィルム
©2017 ZOOKEEPER'S WIFE LP. ALL RIGHTS RESERVED.

ナチスの手が迫るワルシャワで、多くのユダヤ人を自分たちの経営する動物園に匿い、300もの命を救った夫婦の実話をもとにした感動作。夫が不在中も、一人果敢に隠れ家を守り抜いたアントニーナを『ゼロ・ダーク・サセティ』のジェシカ・チャステインが演じる。12月15日 (金) よりTOHOシネマズみゆき座他にて公開。



© Lem.pl, fotografia wykorzystana w filmie Autor Solaris

ポーランド領のルヴフ(現ウクライナ・リヴィウ)に生まれたレム(1921～2006)は、二度映画化された『ソラリス』をはじめとする傑作SF小説を数多く発表し、世界中で絶大な人気を誇る作家です。本特集では、昨年ポーランドで発表されたレムについての初のドキュメンタリー映画と、レムが脚本を手がけワイダが監督した短編映画をご紹介します。



ジャパンプレミア*『寄せ集め』と併映

ソラリスの著者 Autor Solaris

監督:ボリス・ランコシュ

2016年|56分|カラー|デジタル

SF小説の金字塔『ソラリス』の著者スタニスワフ・レムの謎に挑む、『裏面』の監督ボリス・ランコシュによる初のドキュメンタリー伝記映画。ユダヤ知識人の家に生まれながらホロコーストを生き延び、SFの世界に新たな地平を切り開いたレムの生涯と作品に隠された秘密を、研究者や翻訳家、レムの甥らが語る。レムの映した8ミリ映像、フィリップ・K・ディックの未公開書簡、レム自身の朗読音声も初収録。

© Lem.pl, fotografia wykorzystana w filmie Autor Solaris



『ソラリスの著者』と併映

寄せ集め Przekładaniec

監督:アンジェイ・ワイダ

1968年|35分|モノクロ|DVDクオリティ

レムが1957年に発表した短編小説をもとにしたSFコメディ短編。脚本もレムが手がけている。自動車ラリーでレース中に事故で亡くなった弟リシャルトの四肢・臓器を移植された兄トマシュ。その後も何度も事故にあい、その度に移植手術を受け続けたトマシュがたどる運命とは？

*2作品同時上映

*『ソラリスの著者』監督ボリス・ランコシュのインタビュー映像10分付

11/30(木)18:30 12/10(日)16:30 12/15(金)18:30

ボグダン・ジヴォルスキの傑作ドキュメンタリー Bogdan Dziworski 監督:ボグダン・ジヴォルスキ



ニュース映画の撮影技師としてキャリアをスタートし、スポーツ競技等のドキュメンタリーを監督し世界的な評価を得たジヴォルスキ(1941～)は、劇映画の撮影監督でも成功を収めました。現在は映画学校の教授として多くの弟子を輩出している彼の代表作5短編を紹介します。

アイスホッケー Hokej

1976年|12分|カラー|DVDクオリティ

ホッケーの試合を「アイスホッケーのバック(ゴム製平円盤)の視点から」撮影した作品。

人生の舞台 Arena życia

1979年|20分|モノクロ|DVDクオリティ

技の練達をテーマに定めた、ジヴォルスキの連作サーカス映画、第一作目。

クラシック・バイアスロン Dwubój klasyczny

1978年|11分|カラー|DVDクオリティ

後の世界チャンピオン、ヤスシュ・グィチャック＝ベチャックを映した、一連のスポーツ映画の第一作目。

フェンシング選手 Feczistrz

1980年|12分|カラー|DVDクオリティ

優れたフェンシング・コーチ、ヴワディスワフ・クルビュフスキのトレーニング場面を捉えた作品。

フランツ・クラマーとスキーの風景 Sceny narciarskie z Franzem Klammerem

1980年|21分|カラー|DVDクオリティ

オーストリアのアルペンスキー・チャンピオン、フランツ・クラマーを追った作品。

*5作品同時上映 12/2(土)16:00 12/12(金)19:00

アンジェイ・ワイダ監督追悼 Andrzej Wajda

監督:アンジェイ・ワイダ

『灰とダイヤモンド』『地下水道』をはじめ、90年の生涯を通して40本の映画を撮り、常に政治と歴史に向き合い続けたポーランドの巨匠アンジェイ・ワイダ(1926～2016)。世界各国に多大な影響を与えてきたその反骨精神あふれる作品群の中から、遺作を含む3作品を紹介します。



コルチャック先生 Korczak

1990年|118分|モノクロ|デジタル・リマスター

第二次大戦下、ナチスの手が迫るポーランドでユダヤ人児童のための孤児院を運営していた小児科医で児童文学者のコルチャック。最後まで子供たちを守り続けた彼の生涯をもとに、ホロコーストの悲惨さを訴えた名作。本映画祭で上映される『ユダヤ人を救った動物園』にもコルチャックの姿が登場する。



カティンの森 Katyn

2007年|122分|カラー|デジタル

1942年に起きた、ポーランド史上に残る虐殺事件「カティンの森事件」。約15000人のポーランド将校らがソ連軍によって殺害されながら、長らく真相が解明されなかった事件の真実を、ソ連軍に捕らえられた将校たちとその家族の姿をとおり描き出す。事件によって父を亡くしたワイダが、80歳で手がけた問題作。



残像 Powidoki

2016年|99分|カラー|デジタル

社会主義政権下のポーランドで、表現の自由を求めて闘った芸術家の姿を描いたワイダ最後の傑作。前衛画家ヴワディスワフ・ストゥシェミンスキ(1893～1952)の芸術と自由に対する確固たる信念は、ワイダ自身の生涯と重なりあう。主演は、ポーランド映画を代表するスター、ボグスワフ・リンダ(『偶然』『鉄の男』)。

12/5(土)15:30 12/7(日)13:30

©Ziegler Film "KADR"

12/7(日)11:00 12/12(金)15:30

©2007 Telewizja Polska S.A. All Rights Reserved

11/30(木)13:30 12/10(日)10:30

©2016 Agora Studio Sp. z o.o. Telewizja Polska S.A. (E.T. - Łódź, Mazowieckie, Kujawy, Wielkopolska) Instytut Audiovisualny, Festival Filmowy, Cennik, Fundacja Taniut. All Rights Reserved.

イエジー・カヴァレロヴィッチ没後10年 Jerzy Kawalerowicz 監督:イエジー・カヴァレロヴィッチ

心理ドラマやスリラーの要素の強い作品を多く手がけ“ポーランド派”の中でも異色の存在として知られるカヴァレロヴィッチ(1922~2007)。本特集では、没後10年を記念して、過去のポーランド映画祭でも好評を博した3作品に加え、歴史大作『太陽の王子ファラオ』を上映します。



影

1956年|98分|モノクロ|デジタル

三人の人物による一見バラバラな回想からある一人の人物の輪郭が浮か上がる、斬新で奇抜な構成の政治スリラー。各挿話によって、第二次大戦期(1943年)、終戦直後(1946年)、スターリン主義時代(1950年代)という、ポーランドの歴史上でも特殊な政治状況にある三つの時期が描かれる。カヴァレロヴィッチの特異な作風を堪能できる一作。

11/28(火)16:45 12/8(金)10:30
12/14(土)14:30



夜行列車

1959年|93分|モノクロ|デジタル・リマスター

寝台車両のコンパートメントに乗り合わせた二人の男女を中心に、様々な背景を抱えた乗客たちの人間模様を描いた群像劇。50年代後期ポーランド映画の代表作の一つだが、戦争の影響や国家の命運といったテーマを描く“ポーランド派”の中で本作は異彩を放つ。列車という状況やサスペンス要素の強さは、ヒッチコックの『バルカン超特急』を彷彿させる。

11/25(日)10:20 12/8(金)14:50



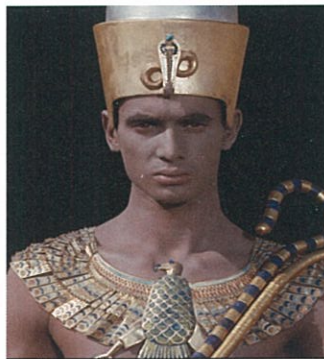
Matka Joanna od Aniołów

尼僧ヨアンナ

1961年|103分|モノクロ|デジタル・リマスター

原作は、1643年にフランスの修道院で起きた尼僧の集団悪魔憑き事件をもとにしたイヴァン・ジェヴィツキの小説。悪魔祓いにきた神父は、情欲に憑かれた尼僧たちを救おうとするが…。監督曰く、本作は「聖職服を着た男女の愛の物語」。カヴァレロヴィッチは本作及び『夜行列車』の主演女優ルツィナ・ヴィンニツカと結婚するが後に離婚している。

11/28(火)14:30 12/8(金)12:40
12/14(土)17:00



Faraon

太陽の王子ファラオ

1966年|152分|カラー|デジタル・リマスター

ポーランドの著名作家ボレスワフ・プルス原作をもとに、1962年から3年以上をかけて完成した歴史大作。紀元前エジプトの王子と神官たちの戦いを描きながら、歴史ドラマにありがちなメロドラマとは一線を画し、政治権力の本質を描き出す。本作は国内外を問わず高く評価され、アカデミー賞最優秀外国語映画賞にもノミネートされた。

11/28(火)11:00 12/8(金)17:00
12/10(日)13:00 12/14(土)11:00

ポーランド俳優ツィブルスキ没後50年 Zbigniew Cybulski

『灰とダイヤモンド』で世界中の映画ファンを魅了し、ポーランドの名俳優としてワイダを始め多くの映画監督と協働したツィブルスキ(1927~1967)。悲劇的な事故で彼が亡くなってから今年で50年。本特集では、その代表作と、ツィブルスキの記録映画をご紹介します。



Popiół i diament

灰とダイヤモンド

監督:アンジェイ・ワイダ
1958年|103分|モノクロ|デジタル・リマスター

戦争が終結した1945年5月8日から翌朝までの1日、労働者党書記の暗殺を命じられたゲリラ兵の青年マチュクがたどる悲劇的な運命。ワイダの代表作で、ツィブルスキの名を一躍有名にした出世作。彼が演じたアウトローなマチュク像は、東欧のジェームズ・ディーンとも呼ばれるほど強烈なイメージを残した。その瑞々しさは今見ても変わらない。

11/30(土)11:00 12/6(金)11:00



Zbyszek

ズビシェク

監督:ヤン・ラスコフスキ
1969年|70分|モノクロ|DVDクオリティ

『夜行列車』等、ポーランド派の映画作品を数多く手がけた撮影監督ラスコフスキ(1928~2014)による実験的記録映画。ツィブルスキの出演作12本と記録映画をモンタージュし、ポーランドの若者たちの架空の伝記を物語る意欲作。「ズビシェク」はツィブルスキの名前「ズビグニェフ」の愛称形。ポーランド映画史研究にとって極めて重要な作品。

12/6(土)13:30 12/12(火)11:00

*ツィブルスキポストカードを先着で各回20名様にプレゼント!

画家ベクシンスキー特集 Zdzisław Beksiński

その独特で退廃的な世界観から、「終焉の画家」と呼ばれカルト的人気を誇るポーランド出身の芸術家ベクシンスキー(1929~2005)。彼の残した作品とその人生は、後世の作家たちにインスピレーションをもたらし、新たな映画作品を生み出しました。本特集では、ベクシンスキーについてのフィクション映画『最後の家族』と、ドキュメンタリー作品『ベクシンスキー家の人々』をご紹介します。画家ベクシンスキーの新たな一面を知る絶好の機会です。



Ostatnia rodzina 最後の家族

監督:ヤン・P・マトウシンスキ
2016年|124分|カラー|デジタル

ベクシンスキーとその家族に訪れた悲運を、実話を元に描いた作品。絵画と音楽、それぞれの活動の源泉として「死」を近くに感じる父と息子。親子の依存関係や息子の現実の死が飄々と綴られる。監督は「アンジェイ・ワイド映画学校」出身、33歳の新鋭。『イーダ』のダヴィド・オグロドニク他、ポーランドきっての俳優陣が揃う。

11/29(金)11:00 12/2(土)11:00
12/6(金)16:00
©Hubert Komerski



Beksiński. Album wideofoniczny ベクシンスキー家の人々 映像と音声のアルバム

監督:マルチン・ボルハルト
2017年|80分|カラー|デジタル

ベクシンスキーと息子トメックとの複雑な関係を描いたドキュメンタリー。音楽記者として活躍しながら、うつ病に苦しみ自殺未遂をくり返していたトメック。心揺さぶる一家族の日々を、ベクシンスキー家所蔵の未公開音声・映像・画像によって詳細に再現。原作はマグダレナ・グジェバウコフスカのベストセラー伝記。クラクフ映画祭特別表彰作品。

12/2(土)13:30 12/6(金)19:00

ポーランド・アニメーション70周年企画 Polska Animacja

Powered by CULTURE.PL

2017年は、ポーランド・アニメーション70周年を記念する年です。1947年、ゼノン・ヴァシレフスキによるストップモーション・アニメーション映画『クラクスの王の時代に』がポーランドの劇場にて公開され反響を呼び、ポーランド・アニメーションのひとつの重要な実績となりました。今年は世界中のアニメーション映画祭で記念上映などが行なわれている中、本映画祭ではポーランドテレビ(TVP)で1950年代から放映されてきた子供向けテレビ番組「おやすみアニメ」のなかで特に人気があった2つのシリーズと、トマシュ・ボバクル(期待の若手アニメーション作家)の2作品を紹介します。

トマシュ・ボバクル作品



Ziegenort ツィーゲノルト

2013年|18分|カラー|デジタル
ある村で、成長の過程で様々なことを乗り越えなければならない少年を描く。半魚人の少年にとって困難な状況がやってくる。



黒 Czerni

2015年|14分|モノクロ|デジタル
地上で起きた核戦争によって宇宙船に閉じ込められた男女。2人にできることは、地表の核爆発を眺めること。2人は生き延びようとするだけ。

*4作品同時上映 11/29(金)18:30 12/5(金)13:30 12/9(土)12:20



Zaczarowany olówek 魔法のえんぴつ

20分|カラー|DVDクオリティ

1964年から1977年にかけて放送された『魔法のえんぴつ』の主人公は、お絵描きが大好きな男の子、ピョートル。仲良しの子犬と一緒に歩く先々で待ち受けているのは大事件。困っている人達を助けたいピョートルに小人が「魔法のえんぴつ」を渡すと事件解決になる。かわいらしいキャラクターデザインと心温まるストーリー。

©Filmoteka Narodowa



Bolek i Lolek ボレック&ロレック

20分|カラー|DVDクオリティ

1963年にテレビ放送が始まり世界60カ国以上で放送された人気シリーズ。背が高く活発なお兄ちゃん「ボレック」と、おっとりしていて背の低い弟「ロレック」の兄弟がいろんな出来事に立ち向かっていく様子を描いたかわいらしいストーリー。ポーランドの国民的キャラクターの世界をお楽しみください。

© Studio Filmów Rysunkowych

アンコール上映



イマジン Imagine

監督:アンジェイ・ヤキモフスキ
2012年|105分|カラー|デジタル

視覚障害者のための診療所に教師としてやってきたイアン。治療のため診療所に来たものの、心を開かず自分の部屋に閉じこもっていたエヴァは、盲目ながら杖なしで街を自由に歩く彼に興味を惹かれるが…。2015年に日本でも公開された、ポルトガルリスボンの舞台にした異色の恋愛劇。

11/29(金)13:30 12/5(金)11:00 12/12(土)13:00

© Zydziński Artystów i Reżyserów Sp. z o.o., Filmes do Tejo II Multimedia Ltd, KMBD Production, Film and Music Entertainment, Wydawnia Filmów Dokumentalnych i Fabularnych, Canal + Cytelowy Sp. z o.o., Studio Filmowe Jakowski, 2012



イーダ Ida

監督:バヴェウ・バヴリコフスキ
2013年|80分|モノクロ|デジタル

60年代初頭のポーランドを舞台に、孤児として育てられた少女が自身の出生の秘密を知るため旅に出る。ロードムービーでありながら戦時中の痛ましい記憶を静かに描き出した本作は、ポーランド映画初のアカデミー賞外国語映画賞を受賞し、日本でも公開時に大きな反響を呼んだ。

12/1(土)15:50 12/15(金)13:00

©Phoenix Film Investments and Opus Film



ZJEDNOCZONE STANY MIŁOŚCI

ユナイテッド・ステイツ・オブ・ラブ

監督:トマシュ・ヴァシレフスキ
2016年|104分|カラー|デジタル

『真夜中のふたり』の人気若手監督が描く、自由な「生」への希望をくじかれる女性たちの不条理ドラマ。1990年、民主化された後もいまだ前時代の雰囲気が残るポーランド。新しい時代の流れの中で、境遇の異なる4人の女性たちは自らの生き方を問い直す。ベルリン映画祭銀熊賞受賞。

11/29(金)15:50 12/1(土)18:30 12/13(土)18:30

©Oleg Mutu RSC